

先日のある日の夜、ゆうちょ銀行の通帳が手元がないことに気が付きました。どこかにあるはずだと思い、部屋の隅々まで探し、車の中も落ちていないかと探しましたが見つかりませんでした。ここで冷静にならなければと思い、改めて当日と前日の行動を思い起こしながら、祈りつつ確認しました。前日はAtmの操作をすませ、車に戻り、帰り道の途中二つの店舗に立ち寄り、帰宅しました。しかし紛失に気付いた当日は、夜まで通帳を使う必要がなかったことから、夜まで紛失したことに気が付きませんでした。紛失に気が付いた時は、前日に立ち寄った店舗の営業時間もすでに終わっていました。スマホで紛失したときの対応を問い合わせ、指定された番号に連絡をし、なんとか通帳の使用停止の手続きをしました。この使用停止の受付番号は年中無休、24時間体制で対応して下さったことで少し安心しました。ただこの夜は、どこかで落としたことは認めざるを得ないのですが、どういう行動によって紛失することになったのか、など全く思い出せないことに、加齢に伴う物忘れ現象がついに迫ってきたのかと、なんとも惨めな思いに襲われました。しかしすでに、通帳の使用停止を届けたこともあり、祈りの中で神がこの出来事を通して、何を教えようとしておられるのかを考えながら眠りにつきました。

翌日早速、泉南警察に紛失届を提出に行きました。その時はまだそのような紛失物は届いていないということでした。ところがその二日後、警察から通帳の紛失物が届いたと連絡があり、電話で通帳番号を照合した結果、紛失した通帳であることが判明しました。

外国で長く生活しておられた知り合いの方にその話をすると、さすが日本だ、外国ではそんなことはまずないということでした。私は何年も前に財布を紛失したことがありましたが、その時も拾った方が、名前も告げず警察に届けてくださっていました。

外国の事情は詳しくは知りませんが、落とし物を警察に届けてくれる人が、まだ日本には多くいることに感謝しました。その前に当然ながら、貴重品を落とさないように工夫をするように教えられました。物忘れの多くなってきた頭に、痛い一撃を受けましたが、この一撃に感謝するようにと教えられました。